

撮影:弘瀬秀樹

「美術家は意外と長生きです。
でも作家は割と早く
死んでいる(笑)」

——平野さん

館長対談
vol.6

「健康のためには
美術家のほうが
いいのかもしれませんが(笑)」

——高橋館長



ゲスト

平野啓一郎さん(小説家)

Interview _ Keiichiro Hirano

平野啓一郎流“自分なりの美術史”の作り方

20代後半に原稿用紙2500枚からなる長編小説『葬送』を書き上げた平野さん。
ドラクロワやショパンが活躍するロマン主義全盛期のパリの社交界を
みごとに描き切った力作には同時代への造詣が深い高橋館長も舌を巻きます。
美術と小説の垣根を軽々と飛び越えた、自由な美術談義の始まりです。

